

大蔵高丸植生防護柵見学会

見学日 2015年9月15日

案内人 環境省自然公園指導員 半場 良一氏

参加者 根上、志賀、山本、東、前田、小見山、横山(レポート)

特別参加 栗井英朗環境財団 代表理事栗井晶子

1 経緯

昨年9月8日、同地域の植生防護柵の設置状況、その効果について見学会を実施した。その結果については、昨年度の事業報告の通りである。

2 見学会の目的

昨年に引き続き草原の回復状況を確認すると共に、新たに採用した金属柵の設置状況及び今後の整備計画について調査を行った。



3 草原の回復状況について

湯の沢峠の駐車場から歩いて30～40分の所にこれまでの防護柵はある。山道を覆う笹は、花を咲かせ、所々で立ち枯れが目立つ。昨年より花の数が増えているように見える。今回は、ツノハシバミの実をサルが食べているのを見かけたが、今回はまだ実が小さいためか姿はなかった。途中、幹回り30cmもあろうかと思えるドウダン三本が食害に合っていた。



最初の植生防護柵は、格子のドアを開けて入ったところから始まる。広く周囲を囲った防護柵と、その内部に10メートル四方の防護柵がある。

広く覆った防護柵の方は、日も浅いこともあって、昨年はススキが繁茂し咲き終わったコウリンカが点在していた程度であったが、今回は、ウメバチソウ、ハナイカリ、タチコゴメグサ、タチフウロ、トモエシオガマ、アキノキリンソウなどが確認され、格段に多様な植生が回復していることが確認できた。設置して、4年目となる10メートル四方の柵内は、昨年同様に多様な野草が維持されていた。



4 金属柵の状況

- ① 設置位置 大蔵高丸とハマイバマルの中間点の南東斜面
- ② 設置規模 周囲500メートル
- ③ 設置時期 2014年11月
- ④ 設置主体等 甲州市が500万円(資材費。運搬費、人工代、請負業者粗利込)で設置
- ⑤ 植生 柵内はススキが主体。ウメバチソウ、ハナイカリが点在、一株のマツムシソウを確認。1年を経ずに回復の兆しが見られるということは、高さ180cmの金属柵の賜物と推測。
- ⑥ 作業 当該土地は、甲州市が所有している。500万円の予算を投入し資材をヘリコプターで搬入するという大掛かりな作業が行われた。



5 今後の整備計画

半場氏の説明によると金属柵の南東の大谷ヶ丸の草原(標高1,755メートル)に新たに周囲5キロの防護柵を設置したい旨、市に要請しているとの熱い気持ちが語られました。

予算額は、5,000万円になるとのことで、実現すると全国的にも注目に値する取り組みになるように思います。

6 考察

大蔵高丸の活動は、草原に本来の植生を取り戻そうとするもので、我々の「生物の多様性」と「水源涵養」を目的とするものとは最終目標が若干異なるように思えますが、行政と連携した取り組みは、大変貴重な事例であるように思います。

行政が何故、ここまで積極的に支援をしているのか、甲州市に出向き聴取する価値があるように思います。

7 謝辞

半場氏には、大変精力的にご案内とご説明を頂き感謝いたします。市民活動の原点を確認できたように思います。純粋な思いを我々も一層培って参ります。有難うございました。

また、粟井英朗環境財団の粟井晶子代表理事には見学会に参加を頂き、我々の取り組みや、抱える課題等について共有しご理解を頂き大変ありがたく感謝を致します。今後ともよろしくお願ひします。